



エコアクション21
®環境省
認証番号 0008147

エコアクション21 環境経営レポート (環境報告書)

(令和4年4月 ~ 令和5年3月)



この地球で一緒に暮らす
~環境を守る心をはぐくむ教員を育てる~

令和5年7月31日



国立大学法人
鳴門教育大学

目次

1	学長あいさつ	1
2	鳴門教育大学環境経営方針	2
3	環境マネジメントシステムの状況	3
4	大学創設の趣旨・目的, 対象範囲, 活動, 規模, 組織	4
5	環境経営目標, 環境経営計画(2022年度~2024年度の3か年)	6
6	令和4年度実績及び評価	7
7	環境保全活動	12
8	環境マインドを持った人材の育成	14
	【各種活動】	
	● 新任職員研修	
	● 入学式オリエンテーション	
	● 幼児のエコマインドを育む取り組み	
	● エコアクション21内部監査実施	
	● リュースプラザの状況	
	【環境教育・研究】	
	● 大学における環境関連科目及び環境関連研究	
	● 大学における環境関連研究・取組の紹介	
	● 附属幼稚園における環境教育取組状況	
	● 附属小学校における環境教育取組状況	
	● 附属中学校における環境教育取組状況	
	● 附属特別支援学校における環境教育取組状況	
	【環境関連の地域・社会貢献の取組状況】	
	● 「親子で感じる、身近な自然のすばらしさ」	
	● 「令和4年度食品ロス削減の取組への協力」	
9	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反, 訴訟等の有無	31
10	代表者による全体評価と見直し・指示	32

1 学長あいさつ

鳴門教育大学は、1981年の創設以来、新構想の教育大学として教師教育の先導的役割を担ってきました。その一環として、附属学校園を含む本学の全構成員が、環境に対する意識を高め、自らの大学生活の中で実践する取組を継続してきました。平成22（2010）年11月には「鳴門教育大学環境方針」を策定し、平成24年3月にまず鳴門サイト（大学キャンパス）が、続いて平成25年2月には徳島サイト（附属学校地区）が「エコアクション21」の認証・登録を取得しました。

2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標となっています。SDGsは、17のゴール・169のターゲットから構成されていますが、このなかにも環境問題が広く関連しています。直接的に関わる目標としては、12「つくる責任 つかう責任」、13「気候変動に具体的な対策を」、14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」などがあります。今後持続可能でより良い世界を作るためには、エネルギーや資源の使用、環境の保護と回復などに積極的に取り組むことが求められています。

このような社会情勢のもとで本学がエコアクション21に取り組むことの意義としては大学としてエネルギーや資源の効率的な使用を実現していくことが挙げられますが、それにとどまらず、エコアクション21の活動を通して、全構成員が環境を意識して行動できる能力を高めていくことが挙げられます。

さらに本学でエコアクションに積極的に取り組む意義としては、環境に対する意識をもち環境問題に取り組むことのできる教師の養成につながることを挙げることができます。鳴門教生が教師となったとき、学校において次世代を担う子どもたちに対して、環境に対する意識をもち問題に取り組むよう教育してくれるようになることが期待されるからです。

本学のエコアクションの取組をまとめた「エコアクション21環境活動レポート（平成24年度版）」は、「第17回環境コミュニケーション大賞・奨励賞」を受賞しました。さらに「エコアクション21環境活動レポート（平成26年度版）」は「第19回環境コミュニケーション大賞・優秀賞（地球・人間環境フォーラム理事長賞）」を受賞しています。



鳴門教育大学は、これまでの取組をふまえ、エコアクション21の活動を通して、これからも持続可能なキャンパス環境の構築に努め、より良い教師の養成につなげたいと考えております。

令和5年（2023年）7月31日

国立大学法人 鳴門教育大学

学長 佐古 秀一

2 鳴門教育大学環境経営方針

鳴門教育大学環境経営方針

基本理念

鳴門教育大学は、景勝の地、鳴門海峡の潮と光と人が調和する風の通り道にある。この自然を護り、教育の一番札所として優れた教育者を養成し、教育、研究および社会貢献活動を通して、学習環境や自然環境の保全、資源の消費量削減、再使用、再資源化の啓発、推進を目指し、未来へ向けて持続可能な社会を実現します。

基本方針

本学の基本理念に基づき、環境経営方針達成のため、環境経営目標及び環境経営計画を策定し、本学の教職員及び学生ならびに本学に関わる全ての人々が一体となり、以下の活動を自主的・積極的に推進します。

1. 環境経営を通じて、環境マインドを持った人材を育成します。
2. 環境マネジメントシステムを構築し、継続的な運用・維持・改善を図ります。
3. 本学のあらゆる活動に伴い発生する環境負荷の低減を目指し、次の項目を、重点的に取組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 水の使用量の削減
 - (3) 紙の使用量の削減
 - (4) 一般廃棄物の発生抑制
 - (5) 化学物質の適正管理
4. 本学に適用される環境関連法規及びその他の事項を遵守します。
5. 環境経営方針は、本学の教職員及び学生ならびに本学に関わる全ての人々に対し、周知するとともに、環境経営レポート等で、社会にも公表し、環境コミュニケーションを図ります。

2022年（令和4年）4月1日

国立大学法人鳴門教育大学長

佐古 秀一

3 環境マネジメントシステムの状況

- 平成22年11月 エコアクション21認証取得に向けキックオフ宣言
鳴門教育大学環境方針発表
- 平成23年1月 環境目標及び環境活動計画, 環境マネジメントマニュアル策定
- 平成23年4月 エコアクション21試行期間開始
- 平成24年1月 エコアクション21認証・登録に際し, 現地審査
- 平成24年3月 鳴門サイトがエコアクション21認証・登録を取得
- 平成25年1月 エコアクション21現地審査(鳴門サイト中間審査, 徳島サイト拡大審査)
- 平成25年2月 徳島サイトがエコアクション21認証・登録の取得(範囲拡大)
- 平成26年2月 エコアクション21現地審査(更新審査)
- 平成26年3月 エコアクション21環境活動レポートH24.4~H25.3が「第17回環境コミュニケーション大賞」
奨励賞を受賞**
- 平成26年3月 エコアクション21認証・登録の更新
- 平成27年2月 エコアクション21現地審査(中間審査)
- 平成28年2月 エコアクション21現地審査(更新審査)
- 平成28年2月 エコアクション21環境活動レポートH26.4~H27.3が「第19回環境コミュニケーション大賞」
優秀賞を受賞**
- 平成28年3月 エコアクション21認証・登録の更新
- 平成29年2月 エコアクション21現地審査(中間審査)
- 平成30年2月 エコアクション21現地審査(更新審査)
- 平成30年3月 エコアクション21認証・登録の更新
- 平成31年2月 エコアクション21現地審査(中間審査)
- 令和2年2月 エコアクション21現地審査(更新審査)
- 令和2年3月 エコアクション21認証・登録の更新
- 令和3年11月 エコアクション21現地審査(中間審査)(※新型コロナウイルスの影響で中間審査延期)
- 〈令和4年度〉
- 令和4年4月 令和4年度新任職員研修にて, エコアクション21の説明を実施(46人)
- 令和4年4月 令和4年度入学式オリエンテーションにてエコアクション21の説明を実施(351人)
- 令和4年7月 エコアクション21現地審査(更新審査)(※新型コロナウイルスの影響で更新審査延期)
- 令和4年9月 エコアクション21認証・登録の更新(※更新審査延期による影響)
- 令和4年9月 鳴門サイト(高島団地)・徳島サイト(附属学校園)内部監査実施
~10月
- 令和5年2月 エコアクション21現地審査(中間審査)



4 大学創設の趣旨・目的，対象範囲，活動，規模，組織

教員には，教育者としての使命感と人間愛に支えられた豊かな教養，教育の理念と方法及び人間性に対する多面的な深い理解並びに教科・領域に関する専門的学力，優れた教育技術など，専門職としての高度の資質能力が強く求められている。

本学は，このような社会的要請に基づき，主として現職教員に高度の研究・研鑽の機会を確保する大学院と，初等教育教員及び中学校教員の養成を行う学部をもち，学校教育に関する理論的，実践的な教育研究を進める「教員のための大学」及び学校教育の推進に寄与する「開かれた大学」として昭和56年10月1日に創設された新しい構想の国立大学であり，以後社会の要請に応えるべく教育研究の充実に取り組んできた。

平成20年度から，今日の学校と教員を巡る状況を踏まえ，養成すべき教員像を明確にし，専門性と実践力を備えた力量のある教員を養成することとし，新たに専門職学位課程（高度学校教育実践専攻）を教職大学院として設置した。

大学院学校教育研究科「修士課程」において，教科・領域等における専門性を培い，優れた教育実践を展開できる能力を，「専門職学位課程」では，幅広い視点からの問題分析力・対応力・解決力を培い，学校や地域で指導力を発揮できる力量を，それぞれ有する初等中等教育教員を養成することを目的としている。

学校教育学部においては，幼児・児童・生徒の成長と発達に関する総合的な理解にたち全教科・領域にわたる優れた指導能力を備えた初等教育教員及び中学校教員を養成することを目的としている。

また，本学では，大学と一体となって，教育の理論や実践に関する科学研究を行うとともに，大学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的に，附属幼稚園，附属小学校，附属中学校及び附属特別支援学校を設置している。

併せて，附属学校においては，幼児の心身の発達を助長する保育，児童生徒の心身の発達に応じて義務教育として行われる普通教育のうちの基礎的な教育，及び小学校における教育の基礎の上に義務教育として行われる普通教育，並びに知的障害のある小学校，中学校，高等学校年齢の児童生徒に対する教育及び自立や社会参加に向けた主体的な活動のための適切な指導と必要な支援を実施している。

(1) 法人名及び代表者

国立大学法人鳴門教育大学 学長 佐古 秀一

(2) 対象範囲（認証・登録範囲）及び所在地

（全組織・全活動を対象にしている）

【鳴門サイト】

鳴門教育大学 〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地

【徳島サイト】

鳴門教育大学附属幼稚園 〒770-0808 徳島市南前川町 2 丁目 11 番地の 1

鳴門教育大学附属小学校 〒770-0808 徳島市南前川町 1 丁目 1 番地

鳴門教育大学附属中学校 〒770-0804 徳島市中吉野町 1 丁目 31 番地

鳴門教育大学附属特別支援学校 〒770-0803 徳島市上吉野町 2 丁目 1 番地

(3) 活動（製品・サービス）

教育・研究活動

(4) 対象者

全構成員

(5) 環境管理責任者及び環境管理担当者

環境管理責任者：事務局長・副学長 高橋 正敏

環境管理担当者：総務部施設課長 戸梶 正悟

(6) 事業内容

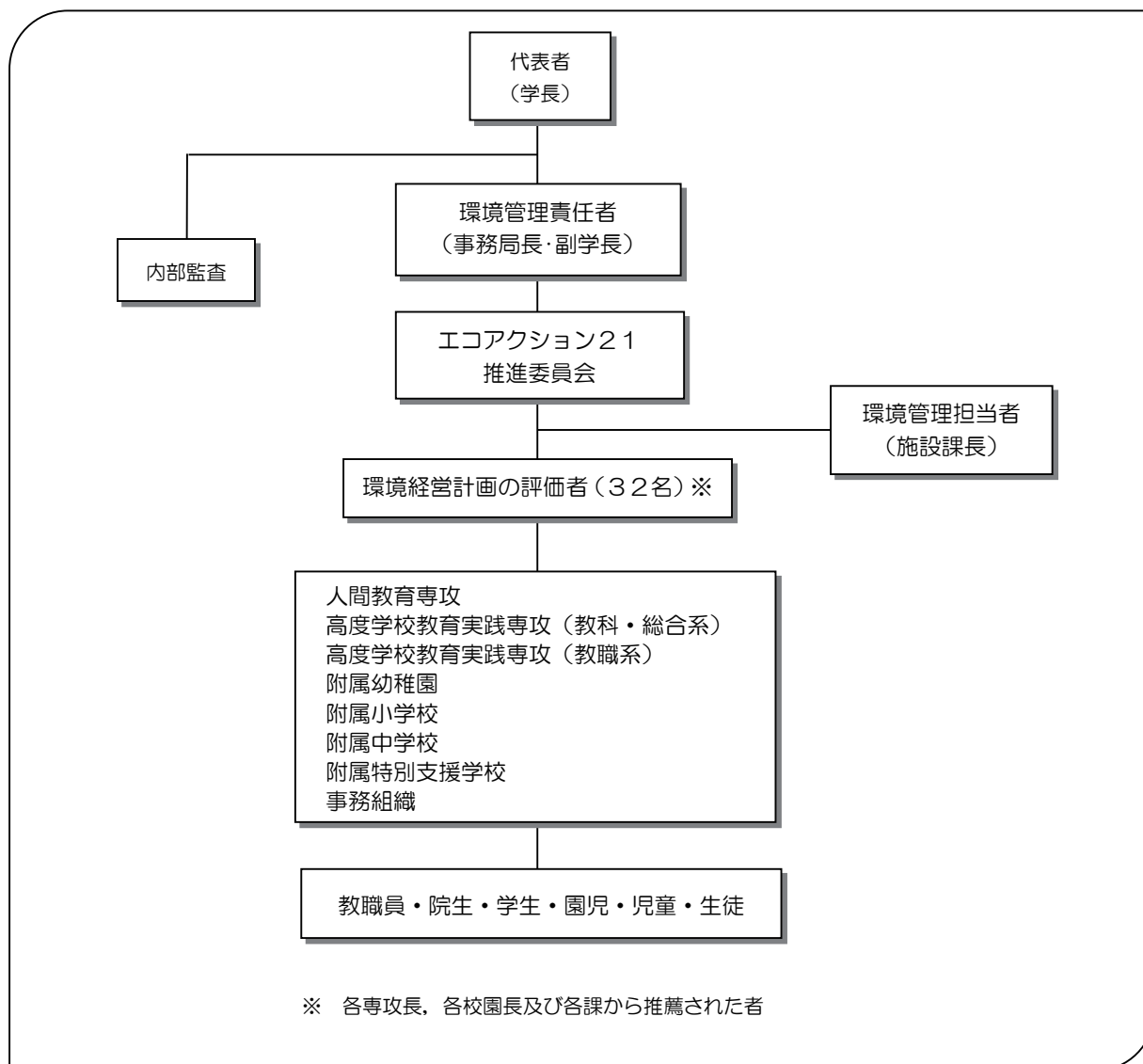
教員養成系大学

(7) 事業規模

区分		令和3年度	令和4年度
教員		125人	121人
附属学校教職員		99人	99人
事務職員・その他		95人	97人
学部生		457人	451人
大学院生		520人	552人
幼児・児童・生徒		1,179人	1,189人
敷地面積	鳴門サイト	239,077 m ²	239,077 m ²
	徳島サイト	49,339 m ²	49,339 m ²
建物延面積	鳴門サイト	45,379 m ²	45,379 m ²
	徳島サイト	18,083 m ²	18,083 m ²
主な負荷設備		排水施設・電気設備	排水施設・電気設備

(各年度5月1日現在)

(8) エコアクション21 組織図



5 環境経営目標，環境経営計画（2022年度～2024年度の3か年）

目的	環境経営目標	環境経営計画
二酸化炭素 排出量の削減 (※1)	電力使用量 2017～2019年度実績の 平均と比べ 2022年度 1%以上削減 2023年度 1%以上削減 2024年度 1%以上削減	照明及び冷暖房は，必要箇所及び必要時間を除き，消灯または停止し節電に努める。 照明器具の定期的な清掃を実施する。 エレベーターは使用を控え，2アップ，3ダウンは階段を利用するよう努める。 冷暖房温度の適正管理（冷房 28 度，暖房 19 度）に努める。 (※2) 冷暖房装置の運転効率を高めるため，定期的にフィルターを清掃する。
	燃料使用量 (ガソリン・都市ガス・LP ガス・灯油等) 電力使用量の目標と同じ	公用車の運行は，省エネ運転に努める。 附属学校園については都市ガスによる冷暖房のため，冷暖房温度の適正管理及びフィルター清掃を行う。
水使用量の削減	水使用量 電力使用量の目標と同じ	手洗い時，洗い物においては，日常的に節水する。 トイレの水流し音発生装置を利用し節水する。
紙使用量の削減	紙購入量 電力使用量の目標と同じ	会議用資料，事務手続き書類の簡素化に取り組む。 通知，連絡等については，電子メールを利用し，資料は電子媒体で保存する。
一般廃棄物の 発生抑制	廃棄物量 電力使用量の目標と同じ	廃棄物は分別回収し，再資源化に努める。 使い捨て製品の使用や購入の抑制をし，詰替え可能な製品の使用に努める。
化学物質の適正管理	化学物質の適正管理	化学物質の適正管理を徹底する。
環境に関する教育	環境マインドを持った 人材育成	<大学> 環境保全に関する啓発を推進する。 <幼稚園> 土・砂・泥・水，植物，動物などの「遊誘財」といふあう中で環境マインドを育成する。 ① 自然の不思議ややさしさ，大きさなどに感動する心 ② 「遊誘財」を生かして，生活の楽しさや便利さを感じる心 <小学校> 1年生からごみの分別や節水，節電など，日々の生活場面で可能な取組みを習慣づけていき，総合的な学習の時間を中心に，環境問題や対策について調べたり考えたりして学習することにより，環境について広い視野で考えて行動できる子どもを育成する。 <中学校> 各教科等において，環境に関する単元（題材）の指導を充実させ，生徒の意識を高めるとともに，生活における実践的態度を育む。 <特別支援学校> 日々の教育活動の中に，ゴミの分別回収，節電，節水等，環境教育に係る内容を積極的に取り入れ，児童生徒とともに取り組むことをとおして，環境教育を推進する意識の向上を図る。

(※1) 電力の排出係数は，四国電力令和2年度実績（令和4年1月7日公表）0.574 (kg-CO₂/kWh) を使用

(※2) 温度「18℃以上，28℃以下であることが望ましい」（学校環境衛生基準）

6 令和4年度実績及び評価

◆マテリアルバランス

マテリアルバランスとは、大学における事業活動において、投入された物質の量（インプット）と活動により排出された物質の量（アウトプット）の収支をあらわしたものです。本学では、教育・研究活動における環境負荷の把握を行い、これらの削減に取り組んでいます。

INPUT

- ・電力使用量
2,804,159 kWh
- ・化石燃料使用量
 - 灯油 657 L
 - 軽油 1,517 L
 - ガソリン 1,757 L
 - LPガス 4,385 kg
 - 都市ガス 74,123 m³
- ・水使用量
29,084 m³
- ・紙購入量
21,544 kg

大学運営
(附属学校園運営)

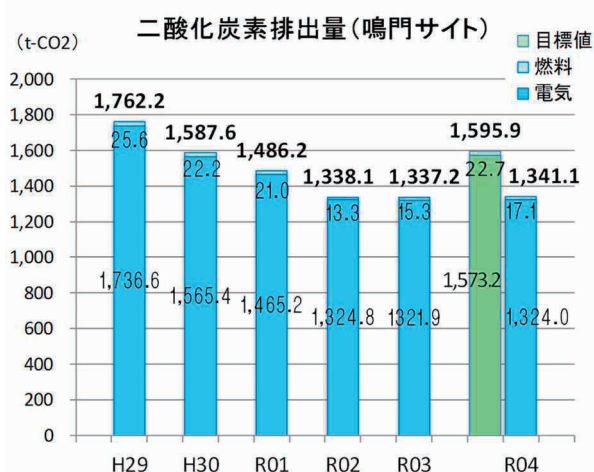


OUTPUT

- ・二酸化炭素排出量
1,802.1 t-CO₂
- ・総排水量
44,588 m³
※学生宿舍使用分 (15,504 m³),
- ・一般廃棄物
44.7t
- ・産業廃棄物
31.6 t

◆環境負荷削減の取組

【●二酸化炭素排出量の実績】 目標:平成29～令和元年度平均と比べ1%以上削減

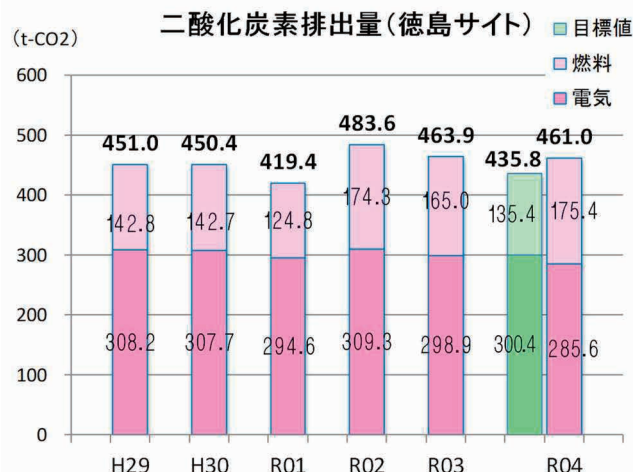


○鳴門サイト

令和4年度の二酸化炭素排出量は、

1,341.1 t-CO₂

目標値より、約16.0%減▼



○徳島サイト

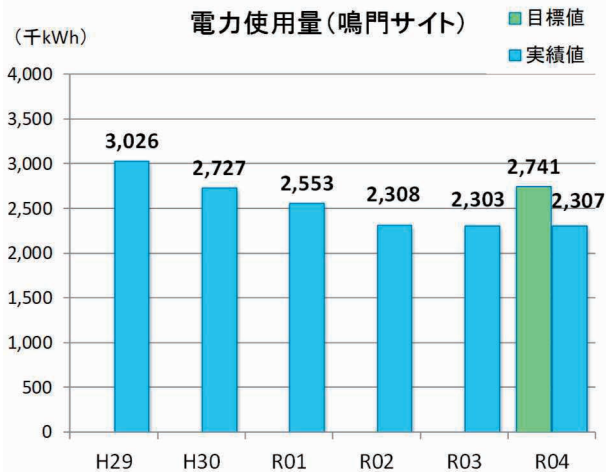
令和4年度の二酸化炭素排出量は、

461.0 t-CO₂

目標値より、約5.8%増▲

鳴門サイトは主に電力使用量による排出が占めており、コロナ禍のため対面授業が減り、前年度と同様の推移になりました。徳島サイトは冷暖房を都市ガスによるGHPで行っており、コロナ禍のため換気しながらの冷暖房使用により、燃料消費が増えたため排出量が増加しました。

【●電力使用量の削減】 目標: 平成 29～令和元年度平均と比べ 1%以上削減

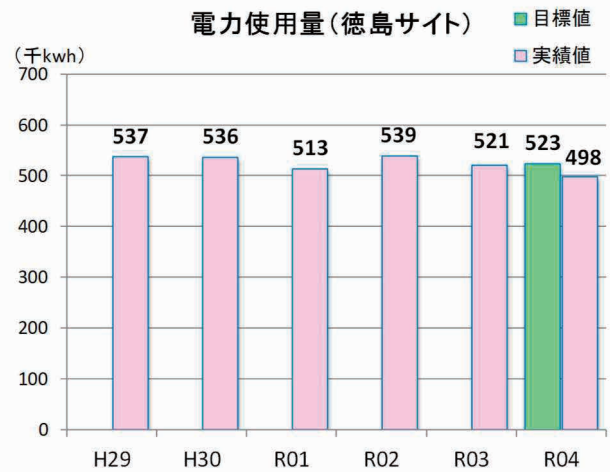


○鳴門サイト

令和4年度の電力使用量は、

2,306,598 kWh

目標値より、約 15.8%減▼



○徳島サイト

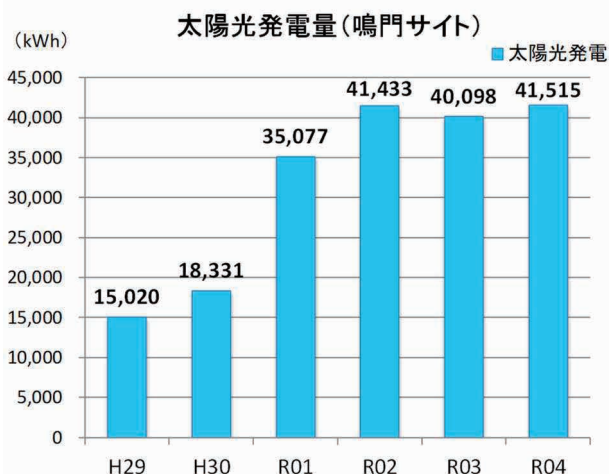
令和4年度の電力使用量は、

497,561 kWh

目標値より、約 4.8%減▼

不要時間・不要場所での電気の消灯，階段利用の推進，空調等の温度の適正管理，パソコン等機器の電源 OFF 等により節電に取り組んでいます。鳴門サイトはコロナ禍のため換気しながらの冷暖房使用が増加要因ですが，外灯のLED化（R2・3年度）及びコロナ禍による対面授業減が減少要因となり，前年度と同様の推移になりました。徳島サイトは日々の取り組みにより目標を達成することができました。

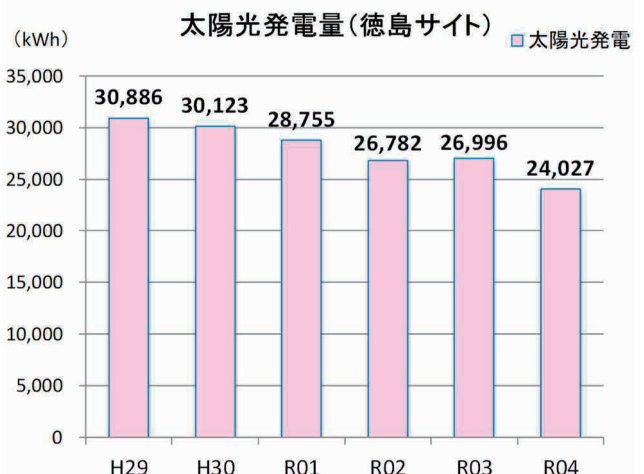
【●太陽光発電】



○鳴門サイト

令和4年度の発電量は、

41,515 kWh



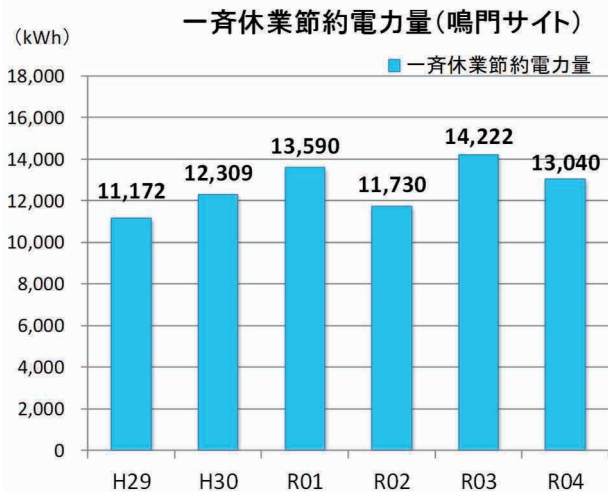
○徳島サイト

令和4年度の発電量は、

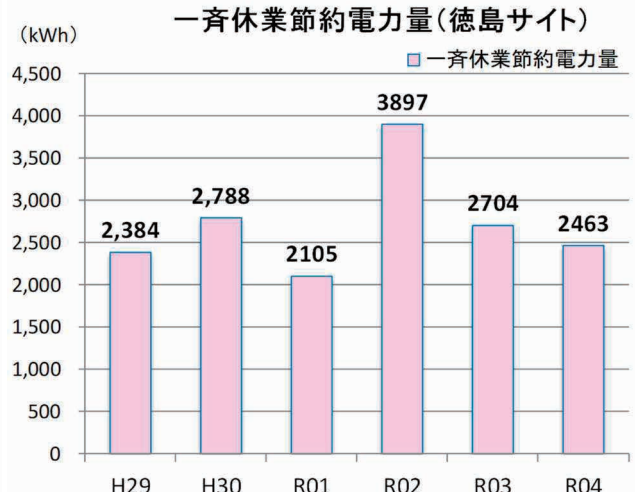
24,027 kWh

鳴門サイトでは平成 22 年に本部棟屋上に 30kW×1 箇所，徳島サイトでは平成 11 年に各附属学校園の校舎・園舎屋上に 10kW×4 箇所の太陽光発電設備を設置しています。令和4年度は，鳴門サイトで 1.8%，徳島サイトで 4.8%，それぞれ電力使用量の削減に貢献しています。徳島サイトの発電量落ち込みはパワーコンディショナー等の経年劣化です。

【●一斉休業による節電】



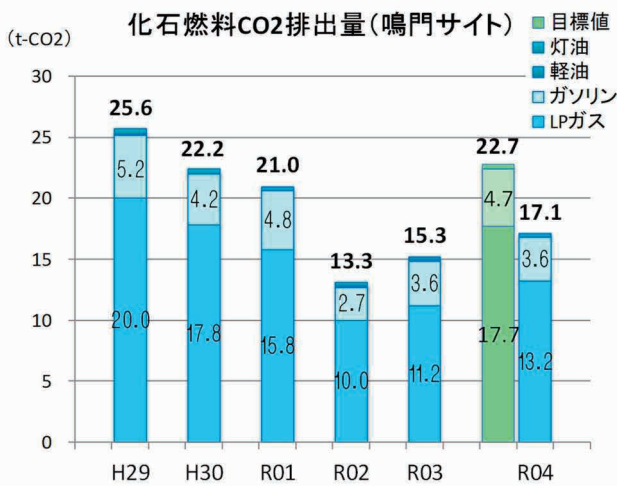
○鳴門サイト
令和4年度の節約電力量は、
13,040kWh



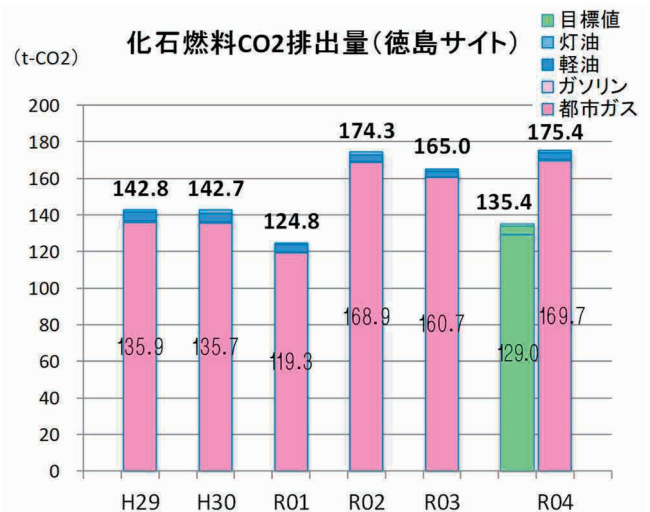
○徳島サイト
令和4年度の節約電力量は、
2,463 kWh

本学では、平成 19 年度より、職員の心身の健康維持・増進、家庭生活の充実を図るとともに、この期間全ての業務を休止して、管理的経費の節減目的として、全学一斉休業を実施しています。令和4年度は、鳴門サイトは約 0.6%、徳島サイトは約 0.5%、電力使用量の削減に貢献しています。

【●化石燃料の二酸化炭素排出量】 目標: 平成 29~令和元年度平均と比べ 1%以上削減



○鳴門サイト
令和4年度の二酸化炭素排出量は、
17.1 t-CO₂
目標値より、約 24.7%減▼

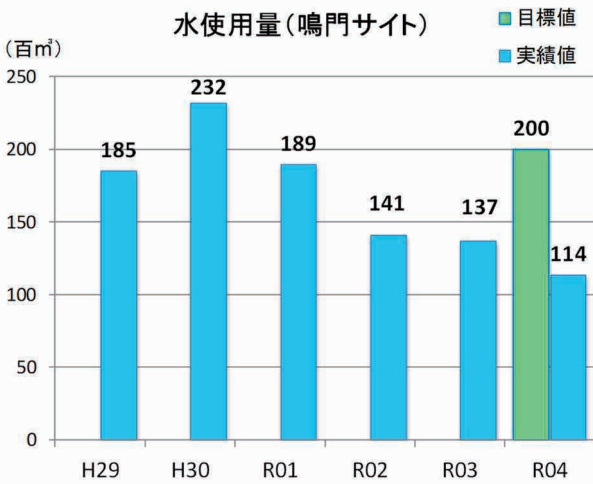


○徳島サイト
令和4年度の二酸化炭素排出量は、
175.4 t-CO₂
目標値より、約 29.5%増▲

鳴門サイトは、LP ガスの大部分が学生食堂用、ガソリンは公用車用、軽油はスポーツトラクター用、灯油は入試の臨時暖房用です。食堂の休業やコロナ禍のため公用車移動が少なくなり減少しました。徳島サイトは、都市ガスの大部分がGHPの冷暖房用、ガソリンは公用車、軽油はスクールバス用、灯油は入試の臨時暖房用です。コロナ禍のため換気しながら冷暖房を使用したので増加しました。

【●水使用量の削減】 目標: 平成 29～令和元年度平均と比べ 1%以上削減

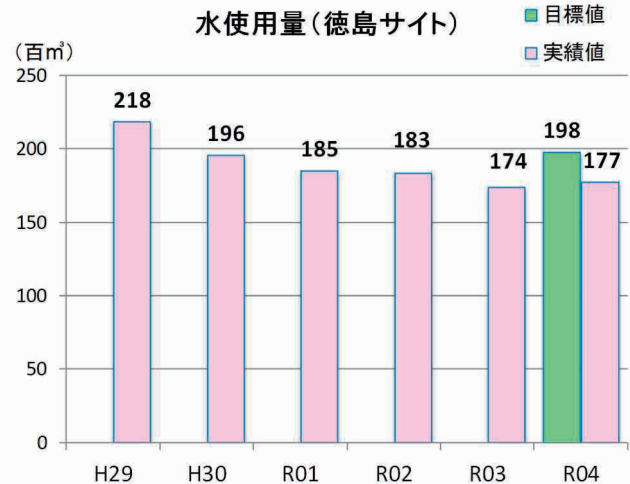
水資源は上水のみです。利用者数等により、年度毎においての変動があります。



○鳴門サイト

令和4年度の水使用量は、11,356 m³

目標値より、約 43.0%減▼



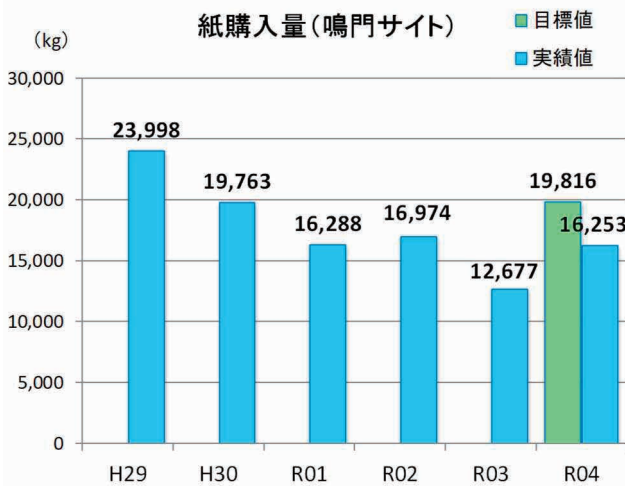
○徳島サイト

令和4年度の水使用量は、17,728 m³

目標値より、約 10.6%減▼

手洗い時の節水、トイレでの擬音装置の使用の推進等により節水に取り組んでいます。鳴門サイトは、食堂の休業により使用量が減少しています。また、徳島サイトも前年度と同様の推移で目標を達成することができました。

【●紙購入量の削減】 目標: 平成 29～令和元年度平均と比べ 1%以上削減

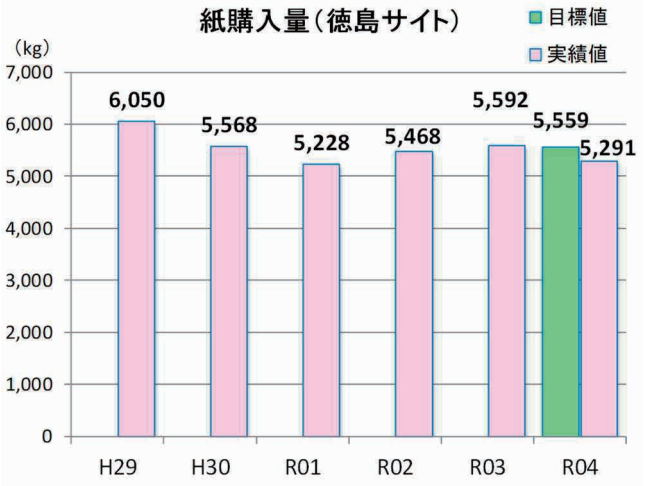


○鳴門サイト

令和4年度のコピー用紙購入量は、

16,253 kg

目標値より、約 18.0%減▼



○徳島サイト

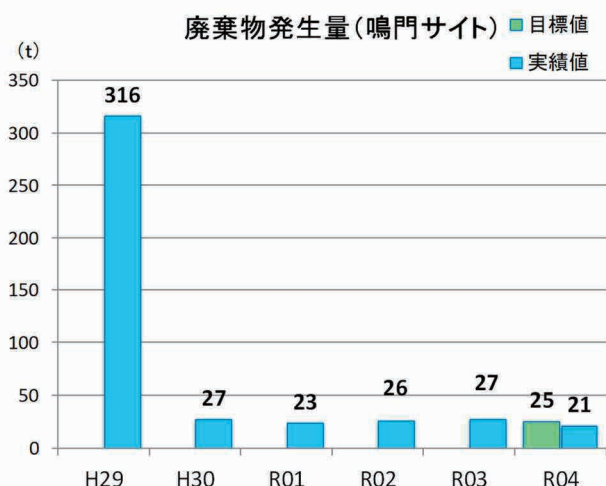
令和4年度のコピー用紙購入量は、

5,291 kg

目標値より、約 4.8%減▼

印刷時における両面印刷の推進、裏面の再利用等により紙購入量の削減に取り組んでいます。また、会議・授業等で使用する資料をデータで配布するペーパーレス化等の取り組みや、鳴門サイトにおける遠隔教育の推進、リモート授業、リモート会議により、両サイト共に目標を達成することができました。

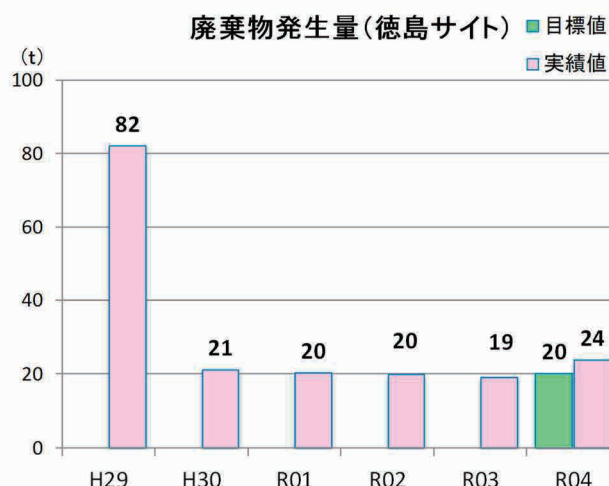
【●一般廃棄物量の削減】 目標: 平成 30～令和元年度に比べ 1%以上削減



○鳴門サイト

令和4年度の一般廃棄物量は、21.0t

目標値より、約 16%減▼



○徳島サイト

令和4年度の一般廃棄物量は、23.8t

目標値より、約 20%増▲

ごみの分別回収の徹底，古紙のリサイクルの推進，詰め替え品の使用の推進等により一般廃棄物の削減に取り組んでいます。平成 30 年度より，計量方法が運搬車のトン数×台数から実重量に変更されたので平成 30 年・令和元年度を基準としました。評価は参考です。

【●化学物質の適正管理】

本学では、「国立大学法人鳴門教育大学毒物及び劇物取扱要項」において毒物等を適正に管理するため、「毒物等管理担当者」及び「毒物等使用責任者」を配置しており，毒物等の使用状況を「毒物等使用簿」により把握・管理しています。

2年に一回毒物等保管庫鍵貸出簿への記録や毒物等の使用状況の把握など適正な管理が行われているかを確認するため，財務課職員による実地検査を行っています。

【●グリーン購入・調達状況】

毎年度，グリーン購入法の規定に基づき，「国立大学法人鳴門教育大学における環境物品等の調達の推進を図るための方針」を定め，これに基づいて環境物品等の調達を推進しています。

◇鳴門教育大学のグリーン購入の方針について

<https://www.naruto-u.ac.jp/files/00195751/r5tyoutatu-housin.pdf>

グリーン購入調達実績（令和4年度）

○鳴門サイト 全分野…100%

○徳島サイト 全分野…100%

7 環境保全活動

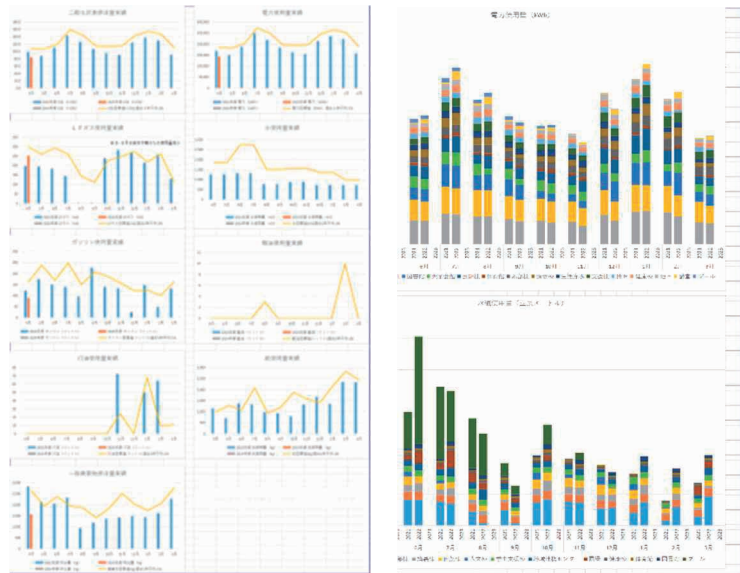
◆省エネルギー対策等について

【エコアクション21啓発活動】

各棟掲示板及び各部屋に、「鳴門教育大学環境経営方針」、「2022年度～2024年度の環境経営目標及び環境経営計画」を掲示しました。2019年度から環境関連グラフを毎月掲示しています。



◇ 環境経営目標及び
環境経営計画掲示



◇ 環境関連グラフ掲示

C02 電力 水道 都市ガス LP ガス ガソリン 灯油
軽油 紙 一般廃棄物 高島は電力 水道の棟別使用

その他にも、

- 1) エレベーター乗り場の呼びボタン横に、階段利用促進シールの貼付をしています。
- 2) 電源スイッチに節電シール
- 3) 手洗い場に節水シール
- 4) ゴミ箱には分別できるようシールを貼っています。



◇ 階段の利用促進



◇ 節電シール



◇ 節水シール



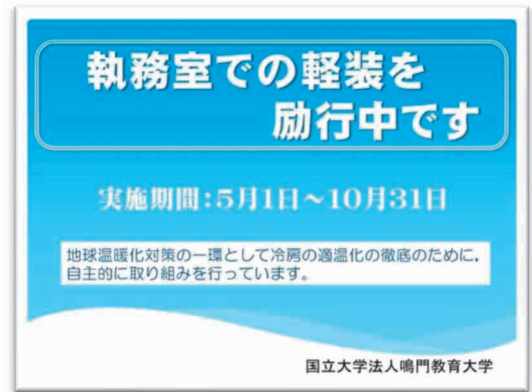
◇ ごみ分別シール

【省エネルギー対策】

地球温暖化防止及び省エネルギーに資するため、夏季の軽装の励行、冷房期間・温度及び暖房期間・温度について、全教職員に通知及び掲示を行っています。

1) 夏季の軽装（5月1日～10月31日）

公式行事への出席等やむを得ない場合を除き、原則として軽装（ノーネクタイ・ノー上着）で執務するようにしています。

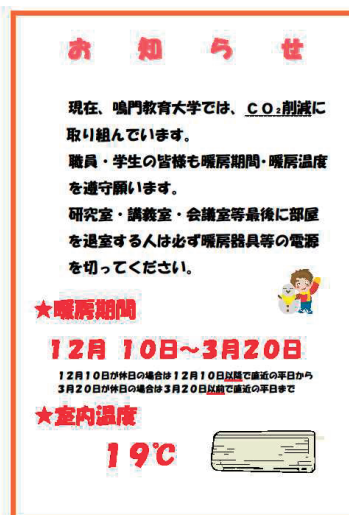
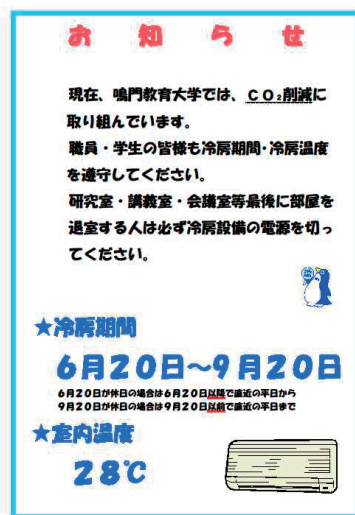


2) 冷暖房期間・温度

冷房期間：6月20日～9月20日 冷房温度：28℃

暖房期間：12月12日～3月20日 暖房温度：19℃

* 事務室、講義室、会議室等に冷房用・暖房用を両面にラミネート加工し掲示しています。



3) 全学一斉休業（8月12日、8月15日、12月28日）

また、本学に勤務する職員の心身の健康の維持・増進、家庭生活の充実を図り、地球温暖化防止及び省エネルギーに資することを目的として、全学一斉休業を実施しました。

8 環境マインドを持った人材の育成

本学の環境経営方針で挙げている「環境マインドを持った人材」とは、エコアクション21の活動を通じ、構成員が自ら主体的に学び、行動する人材のことです。このような人材育成に向けて、本学では下記のような取組を教育科目や活動を通じて行っています。

【各種活動】

● 令和4年度新任職員研修（令和4年4月5日）

新任教職員46名に対し、本学では「エコアクション21」の認証・登録を取得し、環境負荷の低減・環境マインドの育成に向けた取組を推進していることについて説明を行いました。

また、「鳴門教育大学環境経営方針」、「令和4年度環境経営目標および環境経営計画」について説明を行い、本学の構成員の一員として、積極的な協力を呼びかけました。



● 令和4年度入学式オリエンテーション（令和4年4月6日）

新入生351名に対し、省エネ、省資源、廃棄物削減等に全構成員が取り組む「環境マネジメントシステム」の一つとして、「エコアクション21」について概要説明を行いました。

また、鳴門教育大学の構成員の一員として、15項目の「環境経営計画」への積極的な取組を呼びかけました。



◎ 幼児のエコマインドを育む取り組み

(1) 子どもは幼稚園の豊かな自然環境に興味津々

幼児期は、身近な自然環境の美しさ、不思議さに吸い込まれるようにかかわっていきます。そこでは、植物の美しさやそれを遊びに取り入れたり、育てようとしたりします。親しみをもって関わり、命があることに気づき、考え、自然のことを深く知っていきます。園では、豊かな自然環境の中で子どもたちが存分にかかわることができる豊かな環境を引き継いでいます。自然にかかわる中で、その大切さや守るべきものであるという気持ちがしっかりと育つようにしています。



(2) 自然環境は、保育者にとっても学びの宝庫

園の樹木や草花、虫などの自然環境は、大人にとっても興味関心の宝庫です。土づくりや木の剪定、虫との共存、堆肥作り……。学ぶことばかりです。「自然豊かに、自然を大切に」この自然にやさしく、地球にやさしい実感をともなった心が、子どもたちにも継承されていきます。



(3) 遊びの中で、自分たちができるエコなこと

砂場遊びをしていると、水を出しっぱなしの時があります。「お水を出したままにすると、いつかお水はなくなってしまうからね。大事に使ってほしいな。」「お水がなくなったらどうなるん?」、「手も洗えないし、トイレも流せなくなるし、お風呂も入れなくなるね。お料理もお水を使うからできなくなるね。」、「水がなくなるとこまるなあ。」

自然の恩恵を受けていることを知り、大切にしなければいけない限りあるものを実感しながら自分たちで考えて行動できるような態度を育んでいます。



(4) いい土づくり

園の片隅に、コンポストが2台あります。
園の季節の移ろいの中で、木々が落とす落ち葉を中心に、生ごみやウサギの糞もコンポストに入れます。これらの有機物を、微生物の働きにより発酵・分解して堆肥を作っています。
出来た堆肥は、園の畑や植え込みに混ぜて使っています。
園の豊かな自然環境を有効利用しながらエコな循環を進めています。



(5) 「もやせるごみ」・「もやせないごみ」・「もったいないもの入れ (ボックス)」

各保育室等では、ゴミの分別を行っています。
「もえるごみ」ではなく「もやせるごみ」
「もえないごみ」ではなく「もやせないごみ」と表示してあります。「もやせるごみ」は燃やしても自然環境への負担が少ないということ、「もやせないごみ」には、燃やすと自然環境や人への影響があるということを含んでいます。ただごみを捨てるのではなく、その後のことも考えられるように願いが込められています。また、「もったいないもの入れ (ボックス)」もあり、まだ使えそうなもの、作るときに大切に材料を使えたか考える必要があるものが、このボックスに入ります。分別はもちろんのこと、ごみを少なくするためには、無駄遣いをなくすことや無駄にならない活用方法を考えられる環境を構成することが大切だと考えて生活しています。

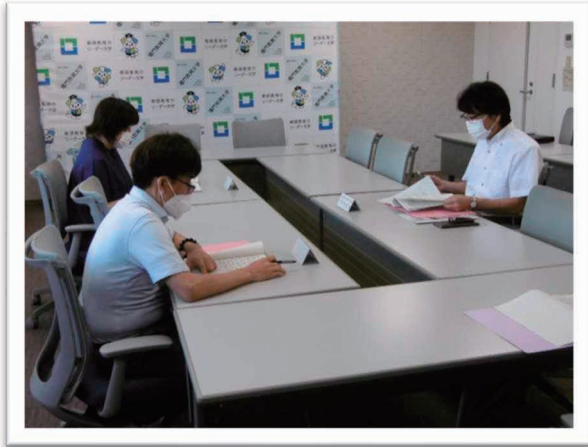


(6) 自然環境を中心とした園と大学とが連携した教育カリキュラム

年に3回程度、大学に園外保育に出かけます。これは、園と大学との教育プログラムで「自然プロジェクト」といいます。子どもたちは、大学の学生や院生とともに、大学の広い畑や自然豊かな広場で、その環境に興味関心をもってかかわります。その幼児の特性や子どもは何をどのように学んでいるのかを、学生は実際に見たり体験したりします。「自然に学び、自然の大切さを知る」子どもも学生も教員も、自然に向き合える貴重な機会となっています。

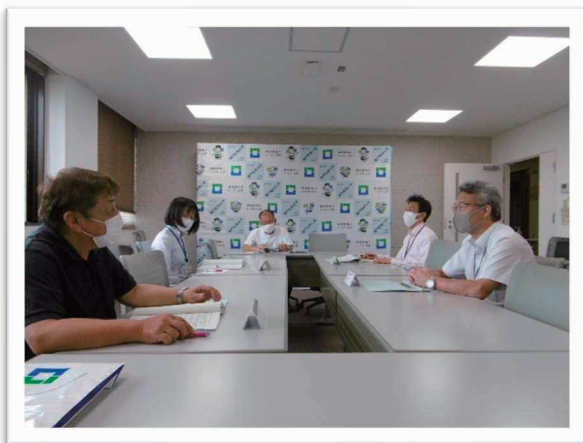


- 令和4年度エコアクション21内部監査実施（令和4年9月12日～10月4日）



環境経営システム全体の状況を中立的立場から監査し、取組状況の確認及び評価を客観的に実施することを目的とし、「国立大学法人鳴門教育大学環境マネジメントマニュアル」に基づき内部監査を実施しています。

令和4年度は、前年度までに内部監査員養成研修を受講した人材の中から決定された監査員6名により、9部門（鳴門サイト6部門・徳島サイト2部門・エコアクション21事務局）に対して内部監査を実施しました。



本学の環境経営システムが、ガイドラインで規定する要求事項に適合しているか、また組織が定められたルールに適合しているか、環境目標が達成されているか、環境活動計画が適切に実施され環境への取組及びシステムが継続的に改善されているか等を監査しました。

- リユースプラザの状況（Web上の物品再利用システム）

平成30年3月から、Web上に「リユースプラザ」というサイトを設けました。譲りたい物品・消耗品が発生した部署や譲って欲しい物品・消耗品が発生した部署はリユースリストに登録してリユース物品をやりとりしています。



【環境教育・研究】

● 大学における環境関連科目

区分	科目	担当教員	内容	
自然環境に関わる科目	開発と環境	青葉暢子 田村和之 畠山輝雄	各国が今どのような環境問題を抱えているのかについて学習し、持続可能な開発を実現するにはどうすればよいのかを、政策レベルだけでなく個人レベルで考えることができるようになることを目的とする。	学部
	人口と食糧問題	宮口智成 西川和孝 畠山輝雄	一次産業従事者の高齢化や後継者不足による農村部の過疎化、食糧自給率の低下、格差社会の問題等を抱えている。そこで、身近な諸問題を家庭レベル、国レベル、そして地球レベルで取り上げ、21世紀の地球の人口とこれを支える食糧がどうなるかを総合的に学ぶと共に、理論的見地から解析を行うことにより理解を深めることを目的とする。	学部
	科学技術と社会	伊藤陽介 宮下晃一 阪東哲也 胸組虎嵐 工藤慎一 粟田高明 福地里菜	この講義では、まず科学技術の変化が社会事象に結びついてきた歴史的経緯を学ぶとともに、私たち自身の身近な技術と生活の状況を分析することを通して人間および社会が主導の科学技術を構築し未来の豊かな生活環境を創造するための議論を行う。	学部
	生活A	田岡佳美 (嘱託講師)	学習指導要領及び生活解説書の目標や内容に基づき、生活科の理念や授業づくりのポイント、評価のあり方や教師の役割について実践事例を踏まえながらその理解を図る。	学部
	生活B	田岡佳美 (嘱託講師)	同上。	学部
	衣生活学	福井典代	洗濯に関する基礎的な知識を習得するとともに、合理的で科学的に洗濯を実践する能力を養うことを目的とする。洗濯による環境問題にも触れる。	学部
	運動方法VI	南隆尚 松井敦典	野外運動は人間が環境への配慮を体感できると共に自由時間を有意義に過ごすために考えだされた遊びである。また学習指導要領において小学生で自然体験活動が取り扱われている。安全かつ自由で多方面に自然の中で逞しく楽しく過ごす思考と技術・指導法の習得を目的とする。	学部
	栽培(実習を含む)	米延仁志	作物の播種・定植から収穫までの生産に係る管理技術を習得し、栽培環境や植物生理から科学的に植物の生育を理解する。	学部
社会環境に関わる科目	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	泉彩夏	衛生学・公衆衛生学の基礎的な内容について深く理解するとともに、健康に関する情報等を活用して説明する力を養う。 ＜到達目標一部抜粋＞衛生・公衆衛生に関する現状や制度を理解したうえで、健康に関する資料等を活用できるようになる。	学部
	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	泉彩夏	同上。	学部
	住生活学	金貞均	授業を通して、①今日の住生活や住環境を取り巻く状況や問題点を理解し説明できる、②問題解決のために客観的で科学的な対応ができる、③身近な住空間と住生活の改善・向上のための実践的態度や能力を身につけることを到達目標とする。	学部
	地誌学概論	立岡裕士	地誌学的思考法(この世界が場所により異なっている状態を、いかに認識し理解するか、それをいかに説明するか)の基本を修得させることを目的とする。 ＜到達目標一部抜粋＞「環境」概念を理解する ・環境決定論の問題点を理解する	学部
	国際教育演習	小澤大成 石村雅雄	国際教育の枠組みとアプローチについて概観したのち、地球的な課題である「環境」、「開発」、「安全」及び「グローバル社会」について文献購読を踏まえ教材を開発し模擬授業を実施・検討する。 講義のテーマは、国際教育の実践に必要な手法について地球的な課題を対象として文献購読、教材開発及び模擬授業の実施と検討を通じて理解することである。到達目標は国際教育の実践に必要な資質を身につけることである。	大学院

区分	科目	担当教員	内容	
	自然科学教育(理科) の内容構成演習 B	胸組虎胤 寺島幸生 佐藤勝幸 福地里菜	理科における教科の内容をその背景となる学問を基盤に深く理解し、それを体系づけて構成する能力を高めるために、主に生物学、地学に関する学問知とその歴史的発展を振り返り、人類がどのように自然を認識・理解し、科学を発展させてきたのかなどについて学ぶ。また、地球温暖化、災害、遺伝子治療など、現代的な諸課題について議論することにより、教科内容の理解を深めることを目指す。受講生の主体的、協同的な学びを取り入れた演習形式の展開を行う。 (1)理科の学習内容をその背景となる生物学・地学を基盤に理解し、児童・生徒が理解しにくい事柄や誤認識しやすい概念を見だし検討する。 (2)背景となる生物学・地学を基盤とし、教科書の学習内容の習得やこれから求められる科学的力を育成できる授業実践を模索することができる。 (3)現代的な諸課題の論点を整理できるようにする。 (授業計画に以下の内容を含む) 第 3 回：生命が置かれた環境がどのように生まれたかについて発表させ議論する。 第 5 回：生命の変遷と環境のかかわりについて発表させ議論する。	大学院
環境マネジメントに関わる科目	地球環境	田村和之	地球環境を構成する様々な要因(自然要因、人的・社会的要因等)間相互の関係性およびそれらの基礎的事項について、講義を行なうとともに、現代社会の様々な議論を通して考究する。 環境を主題としたプログラムの構築、カリキュラムの構築、活動内容の企画・構想および教材の開発等をおこなうため、人類と地球環境の様々な関係についての複眼的・総合的な観点から理解することを目的とし、環境を柱とする様々なレベルでの実践的カリキュラムを構築するための基礎知識を多方面から吸収し、その知識を生きた知識へと導くための基礎が構築されることを到達目標とする。	大学院
	環境と文化	田村和之	環境を構成する様々な要因(自然要因、人的・社会的要因等)間相互の関係性およびそれらの基礎的事項について、その成果を「人間と環境 I, II」へと発展的に活かすことを目標としつつ講義を行なうとともに、現代社会の様々な議論を通して考究する。 環境を主題としたプログラムの構築、カリキュラムの構築、活動内容の企画・構想および教材の開発等をおこなうため、人類と環境の様々な関係についての複眼的・総合的な観点から理解することを目的とし、環境を柱とする様々なレベルでの実践的カリキュラムを構築するための基礎知識を多方面から吸収し、その知識を生きた知識へと導くための基礎が構築されることを到達目標とする。	大学院
	人間と環境 I	田村和之	環境教育における基本的な理念を学習し、身近な伝統文化・伝統工芸品・自然や施設などを学習活動の教材としてどのように使用することができるかについて発表や討論を通して検証する。さらに、環境と何らかの関わりを持ちながら生きている人々の社会的な活動や暮らしなどについて、環境を主題とする学習活動のための教材として具備されるべき特性及びそれらの有効な活用について考える。 環境学習プログラムにおける教材研究を通して、児童・生徒から社会人など年齢を問わない人たちに自らと様々な環境との関係性を認識させるための教材の開発について探求することを目的とし、人間とそれをとりまく環境との関係性を認識できる教材を探り、その方向性を見出すことを到達目標とする。	大学院
	人間と環境 II	田村和之	有効な環境学習プログラムの基本的な理念、教材開発における成果をもとにした教材の、学習活動における効果的な活用、国内外でこれまで実践されてきた環境教育の事例についての研究および授業者の受講生に対する支援や評価のあり方などの文献を参考にしながら「環境を主題とする学習プログラム」の学習活動あり方を探る。環境学習における活動事例を通して自分自身と環境との関係性を意識化させるための学習活動プログラムの開発を検討することを目的とし、環境教育教材開発に関する事例を扱った文献を通して、環境を主題とする総合学習の授業のあり方を見いだすことを到達目標とする。	大学院

● 大学における環境関連研究

教員名	研究内容
米延仁志	<p>地球環境の変動を正確に把握するためには、気候復元地点の空間密度の向上が重要である。とりわけ、中南米の熱帯域ではこれまで年輪気候学研究がなされておらず、それ故、核実験起源の¹⁴C濃度(¹⁴C Bomb シリーズ)の空白地帯となっている。後者は、¹⁴C年代測定の精度向上に重要な役割を果たす。本研究では、両者の課題を解決することを目的とする。中南米の南北熱帯収束帯に着目し、グアテマラ南部、ペルー北部での海外学術調査を実施して、樹木年輪試料を収集する。本年度は、グアテマラ低地南部で樹木年輪試料を採取した。また、グアテマラ高地、及びペルー中部山岳地域で採取した試料の組織構造の分析と年輪解析を実施した。ペルー産樹木年輪試料では良好なクロスデーティングの結果が得られ、年輪年代学的に有用な樹種であることが判明した。さらに現地周辺の気象データとグリッド気温データの収集とクオリティーチェックを実施し、年輪気候学的解析に備えた。グアテマラ産試料では、近年の降水量の増加に伴い、偽年輪の形成頻度が増加し、年輪年代の確定が困難な樹種であることがわかった。そのため、核実験起源¹⁴Cのアノマリーを併用して、年代の確定を進めることとした。これらの¹⁴C Bomb シリーズ構築のための¹⁴C濃度測定、及び炭素、酸素安定同位体測定試料の調製を進めた。なお、本研究の調査・試料収集ではグアテマラの若手研究者との国際共同研究を実施し、日本に招聘し、調査現地でのさらなる試料収集と現地への成果還元の方途について協議した。</p>
早藤幸隆	<p>本研究は、学校、教育委員会、地域の関係機関や科学者・技術者等の専門家と連携しながら、理数・技術領域に意欲と才能を有する中学生(小学5・6年生を含む)を対象に、3段階のステップアップ教育プログラムによる次世代科学・技術者の才能育成プログラムと指導法の開発を目指した活動を展開し、その実践的評価を目的とした。また、人材・組織も含め限られた地域の教育資源を効率良く活用し、個に応じた体系的な教育プログラムを継続的に実施する教育連携システムの開発を目的とした。(1)受講生の募集・選抜の成果:教育委員会、小・中学校の理数科教員、地域の関係機関・団体の協力の下、募集・選抜方法を計画・実施し、第1期受講生27名、第2期受講生34名、第3期受講生40名を選抜した。(2)ステップアップ教育プログラムの構築:①スタンダードコース(ステップ1)の開設講座:関係機関の教員と連携し、化学・生物・地学・宇宙物理)、数学、技術・情報、脳科学、基礎科学領域をカバーしたスタンダードコース(10回)を実施した。②プレマスターコース(ステップ2)の開設講座:鳴門教育大学 科学・技術者の発掘・養成講座の運営委員会により、第1期受講生27名、第2期受講生34名を選抜し、プレマスターコース及びマスターコース(ステップ3)を実施した。③プレマスターコース及びマスターコースにおける研究成果発表会の実施:研究指導教員・チューター学生・運営委員会委員・外部評価委員会委員及び保護者の参加による研究成果発表会を実施した。(3)地域の教育連携システムの構築:効果的な実施体制の構築を目指して、教育委員会、大学教員、学校教員及び地域の関係機関や科学者・技術者等の専門家から構成される「鳴門教育大学 科学・技術者の発掘・養成講座」運営委員会を設立した。(4)才能育成プログラムにおける実践的評価:受講生に同一項目で行う3課題6項目からなる「評価シート」を作成し、受講生の意欲・能力の伸長状況を受講者の自己評価、TA 評価及び教員評価により調査した。各調査項目における評価の分析は、一元配置分散分析により、定量的な評価を実施し、F 境界値(小学生 3.109、中学生 3.204)及び p<.05 により検証した結果、小学生の創造的能力を除いて、評価差には、有意差がない事が認められ、概ね本評価の設定と方法は、妥当性が高い事が確認された。</p>
町田哲	<p>本研究の目的は、列島日本の山里地域を素材に、近世日本の森林資源をとりまく生業と流通の構造について、①山里における所有と生業の実態、②森林資源をめぐる藩の支配関係、③〈山里—流域—都市〉を結ぶ森林資源の流通構造という3つの地域史的視角から解明することである。</p> <p>特徴の第1は、多様な森林資源を利用・管理してきた社会的諸関係を構造的に把握し、第2に、森林資源の維持・収奪をめぐる地域社会の変化を、18-19世紀における支配構造・市場構造との関連の中で解明する点にある。そのため本研究の第3の特徴は、列島社会の山里とその生業が多様な展開を持っていた点を重視し、近世において特徴をもった以下の4地域を選定している点にある。A焼畑耕作など多様な生業から「林業地帯」へと変貌した阿波・木頭地域、B巨大大都市江戸への薪炭供給地であった房総・養老川流域、C列島各地への有数な材木供給地であった南信濃・天竜川中流域、D藩の専売制の中で、西日本有数の紙生産地となった周防・山代地域である。これらから、列島日本における山里の多様な歴史的展開を比較類型論的に把握する。そして、自然と人間との歴史的展開を、社会的諸関係を介して理解する新たな方法論を開拓し、かつ林業史・山村史・地域史の3研究分野を統合した新しい地平をめざし、研究状況の飛躍的な発展を目指している。</p> <p>研究領域は、(1)コア地域(ABCD)の調査研究、(2)山里の地域史研究会、(3)学界・社会への成果還元の3つによって構成されている。このうち(1)については地道な調査研究を着実に進め、各地域の山の用益と地域構造について解明する糸口を見いだすことができた。(2)についても山里の地域史研究会を年5回実施して、調査研究の成果共有を図った。おなじ山里でも、山の用益内容は、焼畑中心、刈藪・秣、薪炭、石炭等各地域によって多様である。一方で、そうした多様性・差異と同時に、それを利用した人々の社会的関係の各地域固有のあり方を浮き彫りにできつつある。今後さらに検討を進め、成果を発表できるよう心がけたい。</p>

ウォーターサーバーの設置と利用促進—CO2 排出を減らす着実な取組みとして 家庭科教育コース 坂本有芳 教授

2023年1月に講義棟にウォーターサーバーを設置した。導入したのは水道直結型で、水道水を高性能のフィルターで浄化するタイプのものである。以前は、直飲みができるウォータークーラーが設置されていた場所を利用している。ウォータークーラーは、新型コロナウイルス感染症の拡大期に使用が禁止された後に撤去されていた。すでに水道管が通っている場所であるため、大掛かりな工事をせずともすぐに設置することができた。

このウォーターサーバーのポイントは、「水道水を利用している」ことにある。よくある20ℓなど大きなボトルに入った水を利用するウォーターサーバーは、水道管がない場所に簡易に設置できるが、水を輸送する必要があるのが難点である。逐一、トラックで水を輸送すれば、その度にCO₂を発生させることになる。水は重量があるため、輸送を省ける水道の利用はCO₂排出量の抑制に大きく寄与するのだ。

当然、ウォーターサーバーの設置は、飲料水をマイボトルで利用することで、ペットボトルごみを削減することも狙っている。ペットボトルはリサイクルに出せば問題ないと考えられる向きもあるが、リサイクルのためにボトルを集めるにも輸送コストがかかり、粉碎、洗浄、熱処理といった各工程でもCO₂が発生する。よって、そもそも使い捨てのものは「利用しない」というリデュースに取り組むことが、環境負荷を減らす最善の方法である。何しろ、日本のペットボトルごみは国内では処理しきれないほど膨大なのだ。

このねらいに対する理解が進むよう、学生に啓発用の資料を作成してもらい、ウォーターサーバーを設置した場所に掲示している(図)。またサーバー設置初日には、飲料消費に対するアンケート調査を実施し、回答者にはお礼としてサーバーのお湯で入れたコーヒーのサービスを行った(写真)。今後、調査結果をふまえた活動を、さらに進めてゆく予定である。

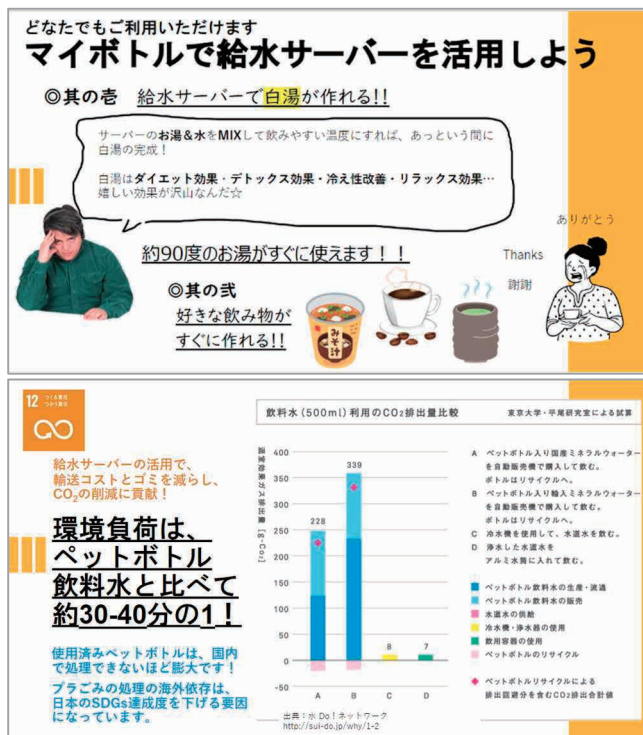


図 啓発用の掲示資料



写真 設置初日のコーヒーサービスの様子

四国5国立大学法人協働による「UNEP地球環境情報展」を開催

今日、エネルギー問題や貧困問題に起因する環境破壊、地球温暖化など環境問題が深刻化し、経済面や社会面でも統合的なバランスが問われています。このことを受け、四国5国立大学は、日本UNEP協会及び地球友の会の御協力のもと、国連環境計画（UNEP）の主催する地球環境情報展を開催しました。UNEP地球環境情報展は、UNEPが所有する世界中のさまざまな自然の美しい生態系、気候変動や廃棄物による環境問題、また各地の興味深い環境活動のパネルを展示するもので、各大学が設定した異なるテーマのパネルが、令和4年9月21日から令和5年3月17日まで、およそ半年をかけて、四国5国立大学のキャンパスを巡回しました。

鳴門教育大学では、講義棟1階に展示会場を設け、学生が日常的に展示内容に接することで、自らが世界の自然環境を取り巻く現状を理解し、世界の環境・社会・経済の問題を自分の出来事として捉え、これから先、どのような行動をすべきかを探るきっかけとなりました。アンケートでは「環境に対する意識が高まった」「これまでの行動を振り返るきっかけとなった」などの感想が寄せられ、環境問題への理解促進と、SDGsの浸透を確認することができました。

同時に、大学内外の見学者に対しても、SDGs機運を醸成するとともに、持続的な社会の実現に向けて、責任ある行動を促すことにつながりました。

◎ 開催期間とテーマ

開催期間	展示テーマ
第1期 9月21日～11月10日	・教育格差 ・消費者教育
第2期 11月15日～12月16日	・貧困と環境破壊 ・持続可能な地域社会
第3期 12月20日～2月2日	・気候変動により激甚化する自然災害 ・気候変動の食への影響
第4期 2月8日～3月17日	・まちづくり ・生態系サービスを活用した地域づくり



● 附属幼稚園における環境教育取組状況

テーマ	年齢	活動
○植物・動物などとかかわる中で、その不思議さや美しさや自然の大きさを感じとる	3歳児・4歳児・5歳児	・草花等自然物を使っての遊び・園外保育・飼育栽培活動 ・北海道の交流園から届く雪の贈り物 ・ICTを活用した他園との交流
○自然の中で遊ぶ楽しさを味わいながら、科学的思考力を促す。	3歳児・4歳児	・鳴門教育大学多目的広場での自然体験プロジェクト
○身近にある川の様子や川に住む生き物に目を向け、大切にしようとする。	5歳児	・NPO「新町川を守る会」に協力し、助任川西の丸橋に掲示するアート作成 ・川や水に親しむ、ひょうたん島クルージング
○自然の中に入り、その雄大さや繊細さを体感し、感動や不思議の念をもち、積極的にかかわる。	3歳児・4歳児・5歳児	・身近な自然環境(徳島中央公園散策・城山登山)の中で、親子で自然を感じる親子遠足 ・大自然の中に入り、そのやさしさや厳しさ味わいながら眉山登山に挑戦

◇ 「自然に触れ、対話することで深まる、環境への親しみや理解」



※「遊誘財」とは？

(鳴門教育大学附属幼稚園が作成した右記資料より抜粋)

子どもたちが興味関心をもって惹き付けられ、様々に感じ、気付き、夢中になって遊び込み、そのものの本質やおもしろさに迫り、その中から豊かな感情や多様な学びが得られる。そのような、子どもたちを遊びに誘う「環境」を、私どもは「遊誘財」と命名した。単なる素材や教材の「材」ではなく、宝としての「財」である。



● 附属小学校における環境教育取組状況

テーマ	学年	教科	時間
○ そだてよう あさがお！ 種からあさがおを育て大切に世話をする中で、命の大切さたくましさについて気づく。	1	生活科学級活動	10/102
○ もりもり食べよう。 先生から給食のお話を聞いたり、一緒に給食を食べたりすることにより、食の大切さを考え、残食を減らす取り組みを行う。	1	生活科学級活動	1/102
○ たんぽぽはかせになろう たんぽぽの仕組みに関する説明文を読む活動を通して、命の大切さやたくましさについて気づく。	2	国語科	12/315
○ ぐんぐんそだて 自分の選んだ野菜を大切に育て、調理して食べることにより命や食の大切さに気づく。	2	生活科	14/105
○ 生きもの はかせになろう 地域に生息する生きものを飼育する活動を通して、生きものを取り巻く環境や生命の大切さについての気付きを深める。	2	生活科	10/105
○ かいちゅうでんとうを作ろう 懐中電灯を実際に作る活動を通して、生活に不可欠な電気の大切さについて考えを深める。	3	理科	8/105
○ 徳島市たんけん隊 学校周辺、城山等を探検するとともに、自然や地域の様子を観察し、人々の生活と環境についての気付きを深める。	3	生活科 理科 社会科	20/160
○ ごみはどこから ふだん何気なく捨てているごみの分別や収集について学ぶことで、地域の人々や地方公共団体の環境を守る努力について考えを深める。	4	社会科	12/105
○ 水のゆくえ 水道栓をひねると出てくる水はどこからどのように流れてきているのか学ぶなかで、美しい水を守る努力について考える。また、工場や家庭などから出る排水が環境に与える影響について学ぶ。	4	社会科	12/105
○ 大切な水 淀川水系の環境やラムサール条約について学ぶ中で、身の回りの環境について考える。	5	社会科	5/105
○ 環境問題について考えよう 日本の自然や地球規模の環境問題について学び、地球をどのように守っていくか考える。	5	社会科	3/105
○ かたづけよう身の回りのもの 身の回りの整理整頓のしかたや、不要品の再使用、再利用について工夫する方法を学び、環境を考えた生活の仕方について考える。	5	家庭科	3/60
○ クリーン大作戦 住まい方に関心を持ち、工夫をして掃除ができる方法について学んだ。校舎内の汚れ(廊下、階段、手洗い場、トイレ、給食時の配膳台、特別教室の机・イスなど)の掃除の仕方・工夫について考え、一部実践する。	6	家庭科	2/55

テーマ	学年	教科	時間
<p>○ 暑い季節を快適に</p> <p>暑い季節の住まい方や着方の工夫を考え、暑さを防ぎ、快適に過ごすにはどうすれば良いかを考える。身近な衣服について調べ、季節に合った衣服について考える。快適に過ごすために、児童が普段使っているもの(制服のネクタイ・襟、ハンカチ、トレーニング帽子、など)について手洗いの有効性を調べ、適切な洗い方や洗剤量について考える。</p>	6	家庭科	4/55
<p>○ 命のつながり</p> <p>第1章～炎と空気～第2章～植物～第3章～ヒト～第4章～水～第5章～月と太陽～第6章～大地～第7章～エネルギー～「ヒトと環境とのつながり」を大きなテーマとし、生物としてのヒトの生活と環境を相互に関係付けながら自然事象を捉える。全単元の終末に、地球に生きる生物として、持続可能な社会の構築という観点から、どのように自然事象と向き合うべきか、それぞれの考えをつかっていく。</p>	6	理科	14/105



そだてよう あさがお！
附属小学校1年

● 附属中学校における環境教育取組状況

テーマ	学年	教科	時間
<p>○ 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ</p> <p>シジュウカラの習性を知り、人間の活動が生物に与える影響について学習する。</p>	1	国語科	3/140
<p>○ モアイは語る -地球の未来-</p> <p>イースター島の文明崩壊の過程を読み、日本や地球全体にも視野を広げ、有限の資源を効率的・長期的に利用するために必要なことを考える。</p>	2	国語科	5/140
<p>○ リオ 伝説のスピーチ</p> <p>地球サミットで行われたセヴァン・スズキさんのスピーチ原稿を読み、地球環境を守るために自分たちでできることを考える。</p>	3	国語科	4/105
<p>○ アマゾンの熱帯雨林</p> <p>森林伐採等による、地球温暖化やアマゾンの環境破壊について学習する。</p>	1	社会科	3/105
<p>○ 日本の資源・エネルギーと電力</p> <p>世界的な視野から日本の資源・エネルギーの生産や消費の現状を理解するとともに、日本の資源・エネルギーに関する特色を大観しながら、環境保全や持続可能性の視点から、我が国のあるべき電力構成を考察する。</p>	2	社会科	2/105

テーマ	学年	教科	時間
○ 九州地方 北九州の工業が水俣病の発生を教訓にし、環境にどのように配慮し工業を発展していったのかについて学ぶ。	2	社会科	1/105
○ ラムサール条約 琵琶湖の環境やラムサール条約について学ぶ。	2	社会科	2/105
○ 近畿地方 環境保全の視点を中心に、自然・産業・人々の暮らしを考察する。	2	社会科	5/105
○ 近代日本を支えた糸と鉄 明治時代における重工業の発展には、足尾銅山鉛毒事件をはじめとする公害という社会問題があったことについて学ぶ。	2	社会科	1/105
○ 環境問題への取組 環境を守るために企業が社会的責任を果たすためにどのような経済活動を行っているのかについて、学ぶ。	3	社会科	1/140
○ 地球の環境 地球の環境をグローバルな視点から考え、話し合う。	3	社会科	4/140
○ 高度経済成長の光と影 高度経済成長期に公害が発生した背景や原因をとらえ、改善や解決に向けての政府の対応や制定された法律について学ぶ。	3	社会科	1/140
○ プラスチックの性質 物質を分類する中でプラスチックの性質に触れ、自然界では分解しない物質であることを学習する。	1	理科	4/105
○ 酸・アルカリと中和 酸やアルカリの水溶液を安全に廃棄するには、どのようにすればよいのか、また、なぜそれが必要なのかについて学ぶ。	3	理科	1/140
○ エネルギー資源とその利用 生活を支えるエネルギーの種類とその特徴について学び、新しい発電方法等についても学習する。	3	理科	2/140
○ 自然界のつり合い さまざまな生物は、生態系の中で互いにどのように関わっているのかを学習する。	3	理科	1/140
○ 身近な自然環境 マツの気孔の観察を通して、空気中の汚れや排ガス問題について学習する。	3	理科	1/140
○ 人間と環境 人間の活動による自然環境への影響には、どのような影響が生じるようになったのかを考える。	3	理科	1/140
○ 自然が人間の生活に及ぼす影響 人間は、自然からどのような影響を受けながら生活しているのかを学習する。	3	理科	1/140
○ 科学技術と人間 科学技術はどのように発展し、私たちの生活に何をもたらしているのかを学習する。	3	理科	1/140
○ 科学技術の利用と環境保全 今後も自然と人間が共存し続けていくためには、どのようなことが必要かを学習する。	3	理科	1/140
○ 空気、水の役割と飲料水、生活排水、ゴミの処理、環境の汚染と保全等の学習内容から、環境と自己の生活がどのように関わっているかを考える。	2	保健体育	6/105
○ プラスチックの性質と利用 プラスチックの性質とリサイクル技術を学習する。	1	技術分野	1/35

テーマ	学年	教科	時間
○ エネルギーの問題を解決する技術 エネルギーを取り巻く問題を知り、エネルギーを節約する新しい技術を学習する。	2	技術分野	2/35
○ よりよい衣生活を目指して 資源・環境と衣服、資源の有効活用のためになどについて学び、自分たちの衣生活からできることを考える。着ていない衣服の有効活用について考え、リメイク方法などを考える。	1	家庭分野	5/35
○ よりよい住生活を目指して 住む人が主人公、住まいと地球、環境に配慮した住生活などについて学び、自分たちの住生活からできることを考える。	1	家庭分野	1/35
○ よりよい食生活を目指して 食品の安全、食糧自給率問題、輸送とエネルギー問題、食生活とゴミなどについて学び、自分たちの食生活からできることを考える。	2	家庭分野	3/35
○ 実践！私のエコアクションプラン 持続可能な社会の構築のために、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できるようにする。	3	家庭分野	2/17.5
○ Think Globally , Act Locally 世界的問題や地域の問題について、現状や自分の思いを多くの人に知ってもらうためのポスターをつくる。	1	英語	6/140
○ Pictures and Our Beautiful Planet アラスカで進む自然破壊の現状と地球温暖化が人類に及ぼす影響について学習する。	2	英語	6/140
○ Animals on the Red List 世界の絶滅の恐れのある動物について知り、自分たちのできることを考える。	3	英語	8/140
○ Think Globally , Act Locally さまざまな環境問題を身近な問題としてとらえ、学習した知識を生かして自分にできることを考える。また、SDGsについて学習する。	1	総合	10/50
○ 徳島未来構想 徳島の現状を調べ、そこから15年後の徳島の環境に関する問題についての提言を行う。	3	総合	15/70

◇ 生徒会活動として、ペットボトルキャップやリングブルの回収をしています。また、環境に配慮することを伝えるポスターの作成や、節電や節水を呼びかける掲示などを通して、啓発に努めています。



● 附属特別支援学校における環境教育取組状況

学部・学年	教科等	指導内容
小学部 (全)	日常生活の指導	○ 燃やせるゴミ、燃やせないゴミを意識して、ゴミ箱に分けて入れる習慣を身につける。
		○ 手洗い、歯磨きの仕方を身につけるとともに、節水を意識して、水を大切にすることを身につける。
		○ 教室等の電灯やエアコンに係活動として消灯することで、電気の無駄遣いをしない習慣を身に付ける。
	生活単元学習	○ 野菜・草花の栽培をとおして、植物の生長における水の大切さを知るとともに、野菜が食生活に欠かせない物であることを知る。
	遊びの指導	○ 中庭での遊びをとおして、季節の変化や草木の生長、昆虫の存在などに気付き、自然に親しみを感じるとともに環境教育の基盤を培う。
中学部 (全)	日常生活の指導	○ 可燃ゴミ、不燃ゴミのマークをゴミ箱に貼り、紙、プラスチック、発泡スチロール、ビニール、木材等の名称を知るとともに、燃やせるゴミ、燃やせないゴミに分別してゴミ捨てをする習慣を身につける。
		○ 水道水、電灯、エアコン等の資源の大切さを知り、人のいないときは消灯し、省エネを通じて環境を意識した生活をする。
	生活単元学習	○ 野菜を栽培しよう 野菜の成長の学習をするとともに、つる性植物(きゅうり)や木立性植物(トマト)による遮光効果の学習をする。
	作業学習	○ 紙工班(牛乳パックの再利用による紙漉作品の制作) ○ 木工班(木工会社の端材を利用した木工作品の制作) ○ 空き缶やペットボトルの分別等に関する実習
	職業・家庭	○ 快適な住まい 部屋の換気、採光、照明、冷暖房機等の必要性について考える。 ○ エコ活動 アルミ缶とスチール缶の分別や缶つぶし機の使用、ペットボトルの解体などを通し、リサイクル活動についての知識や技術を身につける。
高等部 (全)	日常生活の指導	○ 燃やせるゴミ、燃やせないゴミ、ダンボール、資源ゴミ(空き缶・シュレッターゴミ)を分別・整理することで、将来の生活を意識した正しい処理の仕方を身につける。
	生活単元学習	○ 野菜を栽培しよう 野菜の成長の学習をするとともに、つる性植物(きゅうり)や木立性植物(トマト)による遮光効果の学習をする。収穫後の野菜ゴミを生ゴミ処理機により堆肥として再利用する。
	家庭	○ SDG'S について学び、快適な住まい部屋の換気、採光、照明、冷暖房機等の仕方を知り、エコを意識した健康な住まい方を工夫する。 ○ 消費生活 容器の使用自体を減らしたり、3R から4R、5R について意識できたりするよう、卒業後の生活を意識した学習に取り組む。
	作業学習	○ 紙工班(牛乳パックの再利用による紙漉作品の制作) ○ 木工班(木工会社の端材を利用した木工作品の制作)
	就業体験(産業現場等における実習)	○ 吉野川河川敷の清掃活動や古本のリサイクル活動に取り組む。

小学部（日常生活の指導）

〔生活科〕の内容である「手伝い・仕事」に関して、手伝いや戸締り、掃除など、身の回りの簡単な手伝いや仕事などの知識や技能を身につけます。それらをとおして、水や電気などの貴重な資源を無駄遣いしないことも学びます。



小学部（生活単元学習）

〔生活科〕の内容である「生命・自然」に関して、野菜・草花の栽培をしながら、植物の生長を知るとともに、自然や植物への親しみを育みます。日々の水やりや収穫をとおして、野菜の生長における水の大切さや、野菜と食生活への関心を高めるようにします。

中学部（日常生活の指導）

ごみ箱に、可燃ごみとして扱うもの・不燃ごみとして扱うものの例を文字や絵で示し、目で見て分かりやすくすることで日頃からごみを分別して捨てる習慣を身に付けることを目指しています。



中学部（職業・家庭）

空き缶を分別したり、ペットボトルを解体したりしてリサイクル活動に取り組みます。適切な処理の仕方を学習し、実際にやってみることで知識と技術を身に付け、資源の大切さを学びます。



高等部（生活単元学習・就業体験・作業学習／工芸）

野菜栽培後の茎や根を生ゴミ処理機に入れ、堆肥として再利用しています。

また、牛乳パックや木の廃材を利用して、工芸製品を作ったり、リサイクルボックスを設置しペットボトルキャップや古本を集め、各団体に寄付したりしています。

【環境関連の地域・社会貢献の取組状況】

(1) 親子で感じる、身近な自然のすばらしさ

5月に、親子で徳島中央公園に遠足に出かけました。水際公園や水道橋を通り、助任川を眺めて歩きます。

「あっ、いま魚がみえた！ほら！」「本当、魚が見えるくらい水がきれいね。」

「この川には、幼稚園で流した水や、みんなのおうちから流れてくる水も流れてくるからね。」

「お魚が嫌な水は流さん方がいいな。」「家庭でも気をつけます。」など、川に関する話題が飛び交っていました。

11月には、保護者ボランティアと一緒に、眉山登山に挑戦です。頂上までの道のりには、様々な出会いがあります。頑張る自分との出会い、自然の美しさやさしさ、そして恐怖心や厳しさとの出会い、眉山に生息する木々や動植物との出会い、決して楽しいだけではないこの登山は、大きく心が動きます。自然の中では、自然の大きさや厳しさに出会いながらも達成感を味わうことができる貴重な経験です。このような経験から、自然の立場になって考え、自然に自分たちが合わせていくことの大切さも学びました。身近にある自然に向き合い、地域のこと・ものを大切にしようとする気持ちを育みます。



(2) 令和4年度食品ロス削減の取組への協力

消費者庁が推進する、食品ロス削減の普及・啓発に向けて、消費者庁の依頼を受け、食品ロスに関する絵本の読み聞かせと事前事後のアンケート調査に協力しました。

消費者庁から、食品ロス削減をテーマにした絵本が年長児の家庭に配布され、各家庭で読み聞かせを行いました。幼稚園でも読み聞かせをしたところ、「家でも読んでもらった」「食べものを残して、かわいそうだったよ」と感想がでました。

これをきっかけに、「お弁当は残したらもったいないよね」「食べられるだけにしてもらった」「食べ物を捨てるのはもったいない」などの声が子どもたちから聞かれるようになりました。保護者からも「使う分だけ買うようにしました」「食べられる量に食事を調整しました」という声も聞かれました。自然や食品、地球環境、自分たちの生活、この関連や循環を知ることでエコマインドを育むことにつながりました。



9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 法遵守で安心・安全なキャンパス

本学は、環境管理責任者が中心となり、令和4年度の遵守評価を行い、問題ないことを確認することができました。法遵守の実態からキャンパスでの安心・安全な環境下で教育活動が持続できています。また、過去10年間、利害関係者からの苦情、訴訟は1件もありませんでした。

(2) 適用する環境関連法規の遵守状況

活動に関係して適用する環境関連法規の遵守評価を以下に示します。最終、環境管理担当者が遵守の評価を行います。

環境管理担当者：令和5年3月31日

環境関連法規類		遵守評価 令和5年3月		評価	
		監視及び測定	担当		
1	毒物及び劇物取締法	特定薬品関係管理状態	財務課	○	
2	労働安全衛生法	産業医・安全・衛生管理者等	総務課	○	
3	消防法	危険物管理 消防用設備	財務課 施設課	○	
4	廃棄物処理法	一般廃棄物分別及び特別管理廃棄物の処理状態など 増改築工事時の産業廃棄物処理	財務課 施設課	○	
5	資源有効利用促進法	パソコン・二次電池等	財務課	○	
6	家電リサイクル法	廃棄時確実な引渡し・不法投棄	財務課	○	
7	自動車リサイクル法	廃棄時確実な引渡し・不法投棄	財務課	○	
8	建設リサイクル法	新築・増築・解体工事発生時 元請け業者との契約事項	施設課	○	
9	PCB処理特措法	自治体届出・年1回6月確認 微量PCB使用中・管理状態	施設課	○	
10	フロン排出抑制法	フロン回収手続の処理	施設課	○	
11	水質汚濁防止法	瀬戸内海法 月1回 窒素・リン・BOD記録	施設課	○	
12	浄化槽法	定期的な保守点検・清掃、法定点検	施設課	○	
13	水道法	年1回清掃・点検	施設課	○	
14	グリーン購入促進法	報告書 毎年4、5月頃確認	財務課	○	
15	環境配慮契約法	毎年5月頃確認	財務課	○	
16	環境保全活動・環境教育推進法	持続可能な社会・意欲の増進	施設課	○	
17	食品衛生法	営業許可証の確認	学生課	○	
18	省エネ法	エネルギー合理化・自主的	エコアクション21：環境目標・環境活動計画進捗	施設課	○
		トップランナー方式	23機器の内、買替時購入	財務課 施設課	○
19	環境基本法、循環型社会形成推進基本法 温対法、文部科学省からの通達など	国の施策に協力、温室効果ガスの排出抑制枠組など	施設課	○	
20	小型家電リサイクル法	使用済小型電子機器等の排出状況を確認	財務課 施設課	○	

10 代表者による全体の評価と見直し・指示

日 時： 令和5年7月5日(水) 9:00～9:30 場所： 役員応接室
出席者： 学長，環境管理責任者，エコアクション21事務局

環境管理責任者 (事務局長・副学長)	代表者(学長)	環境管理責任者 (事務局長・副学長)
成果・実績のインプット情報	確実な評価・判断	アウトプット情報・改善の指示 変更の必要性に言及
令和5年7月5日	令和5年7月5日	令和5年7月5日
①環境経営方針の達成状況 令和3年度同様、全構成員に対して積極的に周知を図り、令和4年度においても達成していると考えられる。 引き続き、取り組みを推進するため、環境経営方針を全構成員に周知徹底を図る。	『妥当性』 本学が、運用する環境マネジメントシステムは妥当であると判断できる。	■環境経営方針 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 『鳴門教育大学環境経営方針』を令和5年度においても継続する。 ■対策・決裁・周知 エコアクション21環境経営レポート・エコカードを構成員に手渡し、また、ホームページで公表し、全構成員の環境への意識を高める。
②環境経営目標・環境経営計画の進捗度と結果 令和5年2月に実施した中間(現地)審査で理科教育コースにおいて化学物質の管理状況の指摘を受けた。 環境マインドを持った人材育成について、令和4年度に行った活動は評価できる。今後も取り組みを継続していく。	『適切性』 本学は、法で定められている特定事業所ではないが、自主的・積極的に環境マネジメントに取り組むことができるエコアクション21の運用は適切であると判断できる。	■環境経営目標・環境経営計画 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 令和4年度から新たな中期3カ年の環境経営目標及び環境経営計画を策定した。 ■対策・決裁・周知 毎月の光熱水量グラフから、環境関連グラフに変更し二酸化炭素排出量、電力使用量、燃料ガス使用量、水道使用量について中期3カ年の間比較できるようにする。また、鳴門サイトの電力・水道の棟別使用量のグラフも追加し比較できるようにする。これらのグラフを毎月更新し、ポータルサイトに掲載、周知する。 徳島サイトでは換気の方法を考慮して冷暖房時の二酸化炭素排出量低減に努める。
③法遵守の定期的評価結果 適用する環境関連法規類は、担当部署に確認し適切にまとめている。本学の構成員においては、法遵守の重要性を十分認識している。 引き続き、安心・安全な環境下で教育研究活動が持続できるよう、内部監査の重点監査項目として監査を行う。	『有効性』 環境経営計画では、電力・水使用量等の推進状況が年度月別毎にグラフ化され、成果が把握しやすい。 進捗状況は、4か月毎に環境経営計画評価者が監視・測定・評価し、実態を把握する仕組みは良いと思われる。 中間(現地)審査で理科教育コースの化学物質の管理体制の指摘を受け、改善を検討	環境マインドを持った人材の育成については、定めた環境経営計画に基づき活動を推進する。 ■実施体制 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 組織体制及び役割等を構築している。 ■経営システム <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 インプット情報の報告にもあるとおり、環境マネジメントシステムの理解度を深めることが重要であり、学生への環境に対する意識づけが継続して必要である。
④経営システムの実施状況・PDCAサイクルの機能性 中期3カ年計画の1年目にあたり、鳴門サイトでは環境経営目標が達成されたが、令和2年度からのコロナ禍により、徳島サイトでは昨年度同様に換気しながら冷暖房を行ったことで、昨年度並みの二酸化炭素の排出量となった。	『有効性』 環境経営計画では、電力・水使用量等の推進状況が年度月別毎にグラフ化され、成果が把握しやすい。 進捗状況は、4か月毎に環境経営計画評価者が監視・測定・評価し、実態を把握する仕組みは良いと思われる。 中間(現地)審査で理科教育コースの化学物質の管理体制の指摘を受け、改善を検討	構内一斉清掃などの活動に、学生(附属学校園の園児・児童・生徒を含む)が積極的に参加できよう、創意工夫し実施する。 ■対策・決裁・周知 全構成員がエコアクション21の理解を深めるため、環境経営計画等を見直して実行していく。 環境経営レポートは、令和4年度版を周知し、引き続き読者を意識した誌面づくりを心がける。 また、在校生に閲覧しやすいようにライブキャンパスにも引き続き掲載する。
⑤問題点の是正処置・予防処置 是正処置についてはなかった。 令和4年度の環境経営システム全体の状況について、引き続き、環境経営計画評価者が4か月毎に環境経営計画の達成状況の確認を行っている。また、平成24～26年度及び令和3年度に実施した内部監査員養成研修の受講者の中から監査員を推薦し、内部監査を実施した。令和5年度においても、同様に、内部監査を実施する。	気付いた点 コロナ禍により構内一斉清掃などの環境保全活動が中止になっているが、授業等の教育活動をとおして環境に対する意識が、学生に広がりつつあることは評価できる。 今後も、これらの活動を継続し、学生への環境に対する意識づけが必要だ。	■学長特命事項 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 理科教育コースの化学物質の適正管理を徹底するため、実験室使用簿を作成し、使用後に再点検を行うとともに再発防止に努める。 ■対策・決裁・周知 ●令和5年度においても、平成24～26年度及び令和3～4年度に養成した監査員による内部監査を実施する。 また、令和4年度に引き続き内部監査員養成研修を実施する。 理科教育コース長を通じ、審査員から指摘を受けた理科教育コース内で、実験室使用簿の作成を依頼する。
⑥利害関係者の見解及び要望事項 令和4年度においては、要請事項等はなかった。 引き続き、事象発生時は是正処置・予防処置に注意が必要である。	気付いた点 コロナ禍により構内一斉清掃などの環境保全活動が中止になっているが、授業等の教育活動をとおして環境に対する意識が、学生に広がりつつあることは評価できる。 今後も、これらの活動を継続し、学生への環境に対する意識づけが必要だ。	
⑦教育訓練状況と結果 コロナ禍により大学構内一斉清掃は中止された。 鳴門サイトと徳島サイトでは環境関連の授業等を通して教育活動を行い、大学全体としての理解が深まっている。	気付いた点 コロナ禍により構内一斉清掃などの環境保全活動が中止になっているが、授業等の教育活動をとおして環境に対する意識が、学生に広がりつつあることは評価できる。 今後も、これらの活動を継続し、学生への環境に対する意識づけが必要だ。	
⑧緊急事態準備対応・手順書テスト結果 令和4年度はコロナ禍ではあったが11月に例年規模での防災訓練を実施しており、防災予防は問題ない。	気付いた点 コロナ禍により構内一斉清掃などの環境保全活動が中止になっているが、授業等の教育活動をとおして環境に対する意識が、学生に広がりつつあることは評価できる。 今後も、これらの活動を継続し、学生への環境に対する意識づけが必要だ。	
⑨前回レビューのフォローアップ事項 清掃作業等については、昨年度に引き続きコロナ禍で中止した。内部監査については、内部監査員養成研修の受講者の中から監査員を推薦し、実施した。	気付いた点 コロナ禍により構内一斉清掃などの環境保全活動が中止になっているが、授業等の教育活動をとおして環境に対する意識が、学生に広がりつつあることは評価できる。 今後も、これらの活動を継続し、学生への環境に対する意識づけが必要だ。	



令和5年7月 作成

◇国立大学法人鳴門教育大学
エコアクション21推進委員会
〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地
URL <http://www.naruto-u.ac.jp/>
代表者 学長 佐古 秀一
環境管理責任者 事務局長・副学長 高橋 正敏
問合せ：
総務部施設課 TEL 088-687-6082
メール：sisoumu@naruto-u.ac.jp

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。